

ASEAN グローバルプログラムで 得たこと

菅谷 珠希
Tamaki SUGAYA
情報メディア学科 2年

1. はじめに

2017年8月29日から9月7日の10日間、ベトナムとシンガポールにおいて、ハノイ工業大学の学生との協同PBL、企業訪問、大学体験、ビジネスパーソンとの交流会や、現在シンガポールで日本人の起こす企業の資本と経営に参画されている加藤順彦氏の講演会に参加した。

2. 参加目的

私が参加した理由としては2つ挙げられる。一つ目は、高校の頃、約1ヶ月間アメリカに海外研修に行った際に、ホームステイ先の家族や近所の人たちとあまり積極的にコミュニケーションをとることが出来ず悔しい思いをしたからである。この経験から、今回のプログラムでは積極的に会話をし、現地の人とコミュニケーションをとることを目標にしようとした。そして二つ目の理由は、海外の学生がどのような志をもって勉強しているのか、海外で働いているビジネスパーソンの方達は、何がきっかけで働いておられるのかを知りたかったからである。こういった話を聞くことで、今後の自分の将来を考える上での参考としたかった。

3. 研修内容

3.1 ベトナムでの企業訪問

ベトナムでは、浄水器などを扱っている Takagi Vietnam と、オフショア開発をしている Rikkei Soft、NTQ の計3社を訪問した。Takagi Vietnam の社員さん達は、とても親切でベトナム支店で働くことになった経緯や、工場でのベトナム人の働く姿勢をお話していただい、海外にも支店を置いている会社の

一例として、より具体的な内容を知ることが出来た。また工場内を見学させていただき、細かな工程で役割分担されているのを見て、いかに仕事を慎重にこなしているかを知ることが出来た。Rikkei Soft と NTQ では、実際この会社とお仕事をしている日本人の方のお話を聞かせてもらった。日本ではなくベトナムの会社に仕事を頼む利点や、安定より向上心を求めるベトナム人の特性を知り、ベトナムを違った視点から見ることが出来た。

3.2 ハノイ工業大学の学生との PBL

PBL の目的は、ベトナムの学生たちと共に“ユニクロの商品を若者ベトナム市場に売り込む”ことをテーマとしたものであった。まず仮説を立て、それをもとに現地の大学の学生達や現地の人々に自分達で作ったアンケートに答えてもらい、その結果から仮説を立て直し、最終的にどういったものがベトナムの若者市場で売れるのかを細かく分析、発表するというものであった。この作業を通して自分に足りないところが浮き彫りになり、今後の課題を明確に知ることが出来た。その中でも特につまずいたのは、英語でのコミュニケーションである。ベトナムの学生は私たちよりとても流暢に英語を話せており、聞き取ることの難しさや、細かいニュアンスを英語で伝える大変さを改めて感じた。そして、混乱したチームをまとめることの難しさも体験したが、途中で本来の趣旨とは少しずれてしまい、うまくまとめることが出来なかったときにベトナムの学生に助けてもらい、なんとか軌道を修正することが出来た。これは単に英語のレベルの問題だけではなく、プロジェクトに対する責任感や積極性の違いもあったと感じた。このようにつまずいた点はいくつかあるが、志向調査のためのアンケートをとっている間にベトナムの学生の優しさにも触れた。PBL を行ったハノイ工業大学では日本語を勉強している学生が何人もいて積極的に私たちに日本語で話しかけてくれたり、ベトナム語で言い換えて、アンケートの手助けをしてくれたりした。そういった優しさにも触

れ、実際に自分が同じような境遇にあった時やこれからの様々な取り組みでは、積極的に参加していこうと心に決めた。

PBL 後の最終プレゼンでは、ベトナムで働くビジネスパーソンの方々からの確かなアドバイスやお褒めの言葉をいただき、とても多くのことを学ばせてもらった。さらに、他のグループのプレゼンもそれぞれ色々な視点から商品開発を行っていて、聞いていて楽しくとても勉強になった。このように PBL は初めての試みであったが、将来の自分に大きな影響を与える経験をすることができた。

3.3 シンガポールにて南洋理工大学の訪問

毎年トップスクールにランク付けされているような優秀な大学を訪問することが出来るということで、行く前からとても楽しみにしていた。キャンパス内はとても広く、様々な国から学生が来ているため人種が多様でとてもグローバルな空間だと感じた。実際に、南洋理工大学の生徒が受けている“熱伝導”の授業を受けさせてもらったり、高度な技術のロボットを制作している研究室や、航空交通管制の大規模な設備を見学させてもらい、大きな刺激を受けた。

3.4 ビジネスパーソンとの交流会と加藤氏の講演会

実際にシンガポールで働いている日本人の方のお話を聞くことで、海外で働くことのやりがいを知ることが出来た。またビジネスパーソンの方々は皆、若いうちから海外で働く夢を持っていて英語をたくさん勉強したとおっしゃっていて、夢を実現するた

めの努力に感銘を受けた。そして自分も、何か身近なことでもいいから目標を見つけ、そのために努力しなければならないと感じた。

加藤氏の講演会では、日本のビジネスを客観視した考え方や、日本の GDP が減る一方で私たちはこれからどうすべきなのかを力説してくださり、将来、就職などを考える上でとても参考になった。その中でも一番身近に出来そうなこととして、アウトプットを意識する、即ち自分で行動を起こすことが大切であることを学んだ。今の時代はインターネットでそれらアウトプットの情報が他人に届きやすい環境になっているので、自分から何か行動を起こせば少なくとも何人かは自分を支持してくれたり、手助けをしてくれる人が現れると理解した。とにかく自分から発信することが大切だと気づくことが出来た。

4. おわりに

今回のプログラムを通して、多くの人と会話し、色々な方のお話を聞くことができた。それによって、今自分がやらなければいけないこと、自分に足りていないところがはっきりと分かり、自分を見つめ直すいい機会となった。また様々な視点から物事を考えることができ、将来について考える幅が広がった。そして、行く前の目標でもあった英語で積極的に会話するというのも、自分が満足する程度には達成することができたし、今後も更に英語力を向上させていくことを誓った。

最後になりましたが ASEAN グローバルプログラムを企画してくださった方々、このプログラムに関わった全ての方々に心よりお礼申し上げます。